

令和4年度埼玉県内高病原性 鳥インフルエンザの発生状況

埼玉県農林部畜産安全課

高病原性鳥インフルエンザ[®] (Highly pathogenic avian influenza: HPAI)

低病原性鳥インフルエンザ[®] (Lowly pathogenic avian influenza : LPAI)

病原体 : *Orthomyxoviridae* highly pathogenic avian influenza virus

Orthomyxoviridae lowly pathogenic avian influenza virus

- **家きんがHPAIウイルスに感染すると、その多くが急死する。**
一方LPAIウイルスでは、軽い呼吸器症状が出る場合や症状を示さない場合があります。
- **人獣共通感染症である。**
- 日本では、HPAIが平成16年に発生して以来、断続的に発生している。
- 近隣諸国では、中国、韓国、台湾等で流行が続いている。
- **鶏卵・鶏肉は安全です。**
 - ・HPAI発生農場の鶏卵・鶏肉はすべて処分されるため、市場に流通することはありません。
 - ・万が一、鶏卵・鶏肉にインフルエンザウイルスが存在していたとしても、インフルエンザウイルスは熱や酸に弱いため、加熱調理や胃酸で死滅すると考えられています。
 - ・これまで、日本国内で鶏卵・鶏肉を食べて、鳥インフルエンザウイルスに感染した例は報告されていません。



衰弱した鶏

(Foreign Animal Diseases より転載)

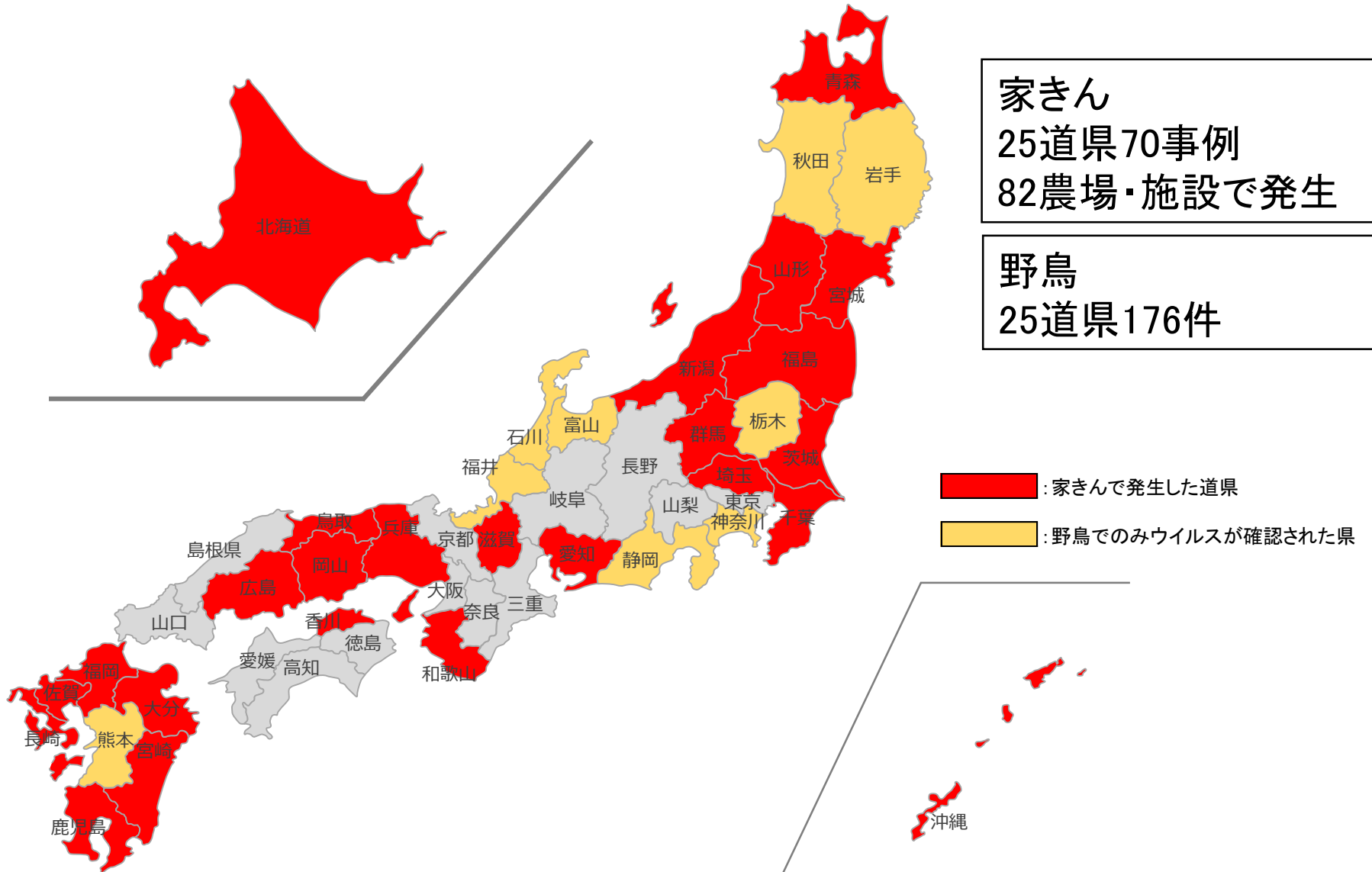


とさかの壊死

(独立行政法人 動物衛生研究所)

令和4年度シーズン 高病原性鳥インフルエンザ国内発生状況

(令和5年1月30日時点)



令和4年度HPAI国内発生状況の特徴

- 例年より野鳥での感染確認が早い
- 家きんでの発生が過去最速
- 大規模農場で発生(100万羽以上)



殺処分羽数は約1,235万羽で過去最大

国内飼養羽数に対する殺処分羽数の割合

約3.9% (R5.1.30時点)

※国内飼養羽数 約3.2億羽(R4.2月畜産統計)

【参考】広がるスピードも過去最速

・令和2年度HPAI国内殺処分羽数 約987万羽(52事例)
(令和2年10月～令和3年5月末)

約8か月間

・令和4年度HPAI国内殺処分羽数 約1,235万羽(70事例)
(令和4年10月～令和5年1月30日)

約4か月間

令和4年度シーズン県内での 高病原性鳥インフルエンザ発生状況

発生順	発生日	発生市町村	畜種	殺処分羽数	防疫措置 への動員数	防疫措置 終了日
1	R4.12.17	深谷市	採卵鶏	190,443羽	2,164人	R4.12.23
2	R4.12.30	狭山市	採卵鶏	116,633羽	1,922人	R5.1.3
3	R5.1.26	行田市	あいがも	2,126羽	36人	R5.1.26
4	R5.2.1	日高市	うずら	149,057羽	394人	R5.2.2

